経済・社会に関する統計の調べ方
―インターネットを活用して―

齋藤　あずさ

Abstract : In the first part, typical statistical books in Japan, general, genre and primary statistics respectively, are listed. In the latter part, practical methods of researches using “e-Stat”, a governmental portal site of primary statistical data, on the numbers of elementary schools by prefectures, the price of a cup of coffee by principal cities, and the transition of numbers of source springs and accommodation facilities of hot spas are used as examples.

目次

Ⅰ. はじめに
Ⅱ. 統計を調べる手順
Ⅲ. 代表的な総合統計
Ⅳ. 代表的な分野別統計
Ⅴ.「政府統計の総合窓口 e-Stat」
Ⅵ. 例題
１. 小学校数が一番少ない都道府県
２. 東京と名古屋の喫茶店におけるコーヒー１杯の価格の違い
３. 昭和 30 年代から昭和 60 年代における日本の温泉の利用源泉数と宿泊施設数の変遷
Ⅶ. 解答
Ⅷ. おわりに

Ⅰ. はじめに

「2009 年の江東区の人口が知りたい」。図書館のレファレンスには、統計を用いて答えられるものが多くある。一見、統計とは関係ないように見えても、「スーパー、百貨店、ホームセンターの各店舗の売り場面積を知りたい」、「今から 20 年前の日本人はどのくらい幸福を感じていたのか」などの質問も統計を使って回答を導くことができる。統計を使うことを知っていることにより、レファレンス業務を効率よく行える。

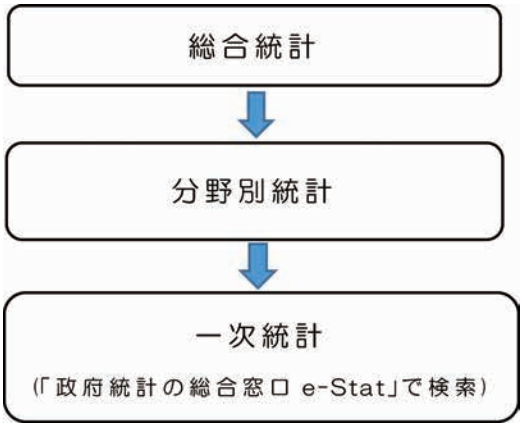
現在では、政府統計を始めとして、数多くの統計がインターネット上で公開されており、図書館の蔵書にその統計書がない場合でも、容易にデータを入手できる。国レベルの数値であれば、関連分野を所管する各府省庁などの統計ページ、都道府県・市区町村であれば、該当の地方公共団体の統計ページに、多くの統計が掲載されている。民間でまとめられた統計も、関連する分野の業界団体のホームページなどで公開されていることがある。

インターネット上で統計を調べようと考えた時に、一番手近な方法が検索エンジンをキーワードで検索することだろう。しかし、複数のそれらしい名称の統計のうち、どの統計を見ればよいのか迷ったり、統計は見つかったが調べたい項目が見当たらないということもある。

本稿では、インターネット上で統計を調べる方法として、総合統計を利用して個別の統計にたどり着く手法を紹介する。ここでは経済・社会分野を取り上げて解説するが、調べ方自体は様々な分野の統計に応用できる。

Ⅱ. 統計を調べる手順

調べたい内容は決まっているが、具体的にどの統計に掲載されているか分からない場合、総合統計から始めて、分野別統計、一次統計の順に確認をしていく。



様々な分野から重要度の高い統計を選定して、一冊にまとめたものが総合統計である。主要な統計を系統的に一括して見ることができる点が大きな利点である。分野ごとに掲載されているので、ざっと通覧すればその分野の主要な統計を網羅できる。総合統計に掲載されている統計は、原典の一次統計から編集されている場合がある。より細分化された調査項目に関する数値を知りたい時には、各統計に記載されている出典の一次統計に当たる。

本稿では、Ⅲ章にてインターネット上で利用できる代表的な総合統計を紹介する。

総合統計で手掛かりが得られない場合、次は分野別統計を調べる。分野別統計は、読んで字のごとく、特定分野の統計が掲載されている資料である。「農林水産業」や「人口」などの広い分野から、『紙・板紙統計年報』のような個別の分野まで様々な統計がある。分野別統計の利点としては、その分野に関しては総合統計より多くの統計が掲載されていることである。一方、特定分野の統計しか掲載されていないため、広い視野で統計をブラウジングすることはで

きない。分野別統計についても、出典の一次統計を確認する手順は総合統計と同様である。

本稿では、Ⅳ章で政府統計を中心に、インターネット上で利用できる代表的な分野別統計を紹介する。

総合統計や分野別統計を探しても見つからない場合は、直接、一次統計を探すことになる。調べたい事項のキーワードを類義語や上位語に広げるなどの工夫をして探すのがコツである。

総合統計では全国値しかなくとも、一次統計には都道府県別の数値が掲載されているケースがある。また、品目によっては総合統計では省略されている場合もある。統計の形式は合っているのに求める品目がない場合も、出典の一次統計を確認するとよい。例えば、後述する「日本統計年鑑」に掲載されている「県庁所在市の主要品目年平均小売価格」にはパン類の品目は「食パン」しか掲載されていない。しかし、一次統計である「小売物価統計調査年報」（動向編）を見てみると「食パン」をはじめ、「あんパン」や「カレーパン」の品目もある。

本稿ではⅤ章において、日本の統計がまとめて掲載されている政府統計のポータルサイト「政府統計の総合窓口 e-Stat」を利用して一次統計を探す方法を紹介する。

Ⅲ. 代表的な総合統計

1.「日本統計年鑑」（総務省統計局 年刊）

http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.htm

この資料は図書館のレファレンスにおいて、最も利用頻度が高い代表的な総合統計である。日本の国土、人口、経済、社会、文化など様々な分野の公的統計や民間統計を包括的に収録した統計である。分野によって章が分かれており、各章ごとに掲載する統計の概要や専門用語の解説が記載されている。全巻英文併記で、巻末には刊行している機関別の統計目録、日本語・英語それぞれのキーワードから引ける索引がある。

2.「日本の統計」（総務省統計局 年刊）

http://www.stat.go.jp/data/nihon/index1.htm

「日本統計年鑑」の中から日本の国土、人口、経済、社会、文化などの幅広い分野に関して、特に重要な統計を選んで掲載している。この統計は、日本統計年鑑に比べて統計が見やすい。学生の調べもの、又は統計の数値を大まかに知りたい時に使う。巻頭には「グラフでみる日本の統計」として 46 のカラーグラフがあり、統計にあまりなじみのない人でも視覚的に日本の姿を捉えられる。読みやすく調べやすいというメリットはあるが、各分野について掲載されている統計数が少ない、又はコンパクトに編集される場合もあるため、必要に応じて「日本統計年鑑」を併用するとよいだろう。

3.「日本の長期統計系列」（総務省統計局）

http://www.stat.go.jp/data/chouki/index.htm

長期統計では過去のデータを数十年単位で見ることができる。「日本統計年鑑」の長期版である。「日本の長期統計系列」には人口、経済、社会、文化など広範な分野の長期統計があり、原則として、官公庁又はこれに準ずる機関が公表したデータを掲載している。この資料は長期間にわたる数値を調べたい、又は連続した期間の数値を調べたい、という場合に使用する。例えば、昭和から平成にかけてのルームエアコンの普及率の推移を調べたい、といった場合などにこの統計を見るとよい。なお、平成 24 年 3 月までは不定期で更新されていたが、その後更新作業は行われていない。また、冊子体を利用する場合は『日本長期統計総覧』第 1 ～ 5 巻 新版（日本統計協会 2006）となる。

4.『日本帝国統計年鑑』（内閣統計局編 東京統計協会 年刊）

戦前の統計を調べるには、『日本統計年鑑』の前身である『日本帝国統計年鑑』を見る。戦前の日本の国土、人口、経済、社会、文化などの広範な分野にわたる基本的な統計である。第 1 回（明治 15 年）から第 59 回（昭和 16 年）まで刊行された。目次はあるが、索引はないので、数値を調べる時には分野からあたりをつけて探す必要がある。

なおこれらは国立国会図書館ホームページ内「国立国会図書館デジタルコレクション」（http://dl.ndl.go.jp/）に収録されている。そのうち第 31 回以降はインターネットで閲覧できるが、第 1 回（明治 15 年）から第 30 回（明治 44 年）までは復刻版の収録となり、また閲覧も国立国会図書館内限定公開となる。

5.「世界の統計」（総務省統計局 年刊）

http://www.stat.go.jp/data/sekai/index.htm

「世界の統計」は、世界各国の統計を項目ごとに一覧できる。また、日本の統計と他国の統計の数値を容易に比較することができる。掲載されている統計は、主に国際機関が提供している統計データである。「日本の統計」と同様に、人口、国民経済計算、農林水産業、鉱工業、労働・賃金、物価・家計、教育・文化などの統計がある。各章のはじめには、出典の一次統計とその項目の解説が付されている。

この他の総合統計は、当館が作成する調べ方の案内サイト「リサーチ・ナビ」内の「専門室のページ」－「経済・社会・教育」で紹介している。総合統計を紹介するページとしては、「統計を調べる」の中に「総合統計」というページがある。また、「長期統計」、「地域に関する統計」、「海外に関する統計」などのページでも、本稿では紹介しきれなかった総合統計を紹介している。

国立国会図書館HP＞リサーチ・ナビ＞専門室のページ－
経済・社会・教育＞調べ方案内－統計を調べる
https://rnavi.ndl.go.jp/business/entry/post.php

Ⅳ. 代表的な分野別統計

インターネット上で見ることができる、代表的かつ公的な分野別統計を紹介する。分野別統計は、ある特定の分野について、Ⅲ章で紹介した「日本統計年鑑」などの総合統計より、数多くの統計がまとまった形で掲載されている。また、総合統計よりも詳細な品目まで統計に掲載されている場合も多い。分野別統計はタイトルで扱う分野が明確にされているので、それぞれのタイトルからあたりをつけて選ぶ。

1.「日本銀行統計」（日本銀行調査統計局）

https://www.boj.or.jp/statistics/pub/boj_st/index.htm/

日本銀行が作成した金融経済に関する統計をまとめた資料である。通貨流通高や預金・貸出、民間金融機関の資産・負債、資金循環などについての統計がある。「日本統計年鑑」では通貨・資金循環の章にあたる。

2.「農林水産省統計表」（農林水産省）

http://www.maff.go.jp/j/tokei/kikaku/nenji/index.html

農林水産業に関する統計を網羅的にまとめた資料であり、食料需給・食料消費なども含まれている。日本の農林水産業を知るには、最も重要な分野別統計である。「農林業センサス」、「作物統計調査」、「漁業センサス」などが主要な統計である。「日本統計年鑑」では農林水産業の章にあたる。

3.「人口統計資料集」（国立社会保障・人口問題研究所）

http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2017RE.asp?chap=0

人口に関する統計をまとめた資料である。「国勢調査」、「人口動態調査」、「生命表」などの日本の統計だけでなく、主要国の人口に関する統計なども掲載している。「日本統計年鑑」では人口・世帯の章にあたる。

4.「労働統計要覧」（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/toukei/youran/index-roudou.html

労働力、雇用、賃金などに関する統計をまとめた資料である。「労働力調査」、「毎月勤労統計調査」、「賃金構造基本統計調査」、「就業構造基本調査」などを含む。また、労働災害、労使関係、社会保障に関する統計も掲載されている。「日本統計年鑑」では労働・賃金、災害・事故、社会保障の章にあたる。

5.「厚生統計要覧」（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/toukei/youran/index-kousei.html

人口・世帯、保健衛生、社会福祉、老人保健福祉、社会保険に関する統計をまとめた資料である。「国民生活基礎調査」、「学校保健統計調査」、「患者調査」、「医療施設調査」などの統計を含む。「日本統計年鑑」では保健衛生、社会保障の章にあたる。

6.「文部科学統計要覧」（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/1383990.htm

教育に関する統計である。主に「学校基本調査報告書」に基づいて、幼稚園から大学、その他の学校の学校数、教員数、学級数、児童数などがまとめられている。また、社会教育、体育・スポーツ、教育費などの統計も含まれている。「日本統計年鑑」では教育、文化、家計の章にあたる。

ここでは「農林水産省統計表」を例に農林水産省のホームページを見てみよう。

その他、当館作成の「リサーチ・ナビ」内の「専門室のページ」－「経済・社会・教育」で、経済・産業、社会・労働・教育・スポーツなどの分野別の統計を紹介している。一例として「経済・社会・教育＞社会を調べる」のページでは「生活・消費に関する統計」、「青少年・児童について調べる」、「高齢者について調べる」などを紹介している。

国立国会図書館HP＞リサーチ・ナビ＞専門室のページ－
経済・社会・教育＞調べ方案内＞社会を調べる
https://rnavi.ndl.go.jp/business/entry/post-75.php

また、同じく「専門室のページ」－「経済・社会・教育」内の「産業情報ガイド」では、産業ごとに公的統計だけではなく民間の機関がまとめた資料も含め、様々な分野の統計を紹介している。

国立国会図書館HP＞リサーチ・ナビ＞専門室のページ－
経済・社会・教育＞調べ方案内＞産業情報ガイド
https://rnavi.ndl.go.jp/business/post.php

Ⅴ.「政府統計の総合窓口 e-Stat」

https://www.e-stat.go.jp/

総合統計や分野別統計の典拠ともなっている一次統計は極めて多岐にわたるが、調べるためのサイトとして、「政府統計の総合窓口 e-Stat」（以下「e-Stat」）がある。各府省の一次統計を集めたサイトであり、政府が特に重要な統計としている「基幹統計」を中心に様々な統計がある。総合統計や分野別統計よりも新しい統計が掲載されていることが多い。

総合統計などの出典である一次統計を調べる場合、又は、総合統計や分野別統計を調べても知りたい内容が見当たらない場合は、「e-Stat」で一次統計を探す。

「e-Stat」には、①「データベースから探す」、②「ファイルから探す」、③「分野から探す」、④「組織から探す」、⑤「地域から探す」、⑥「キーワードで探す」の 6 通りの探し方がある。⑥「キーワードで探す」ではここに出典の統計のキーワードを入力して調べる。上手くヒットしない場合は、③「分野から探す」で探すのがよいだろう。具体的な使い方はⅥ章の例題で解説する。

一次統計を「e-Stat」から探すことの利点は、検索エンジンで一次統計をキーワードなどで検索する場合とは違い、「分野から探す」では重要な統計である基幹統計が分かること、「組織から探す」で

は府省庁ごとの統計を一覧できることである。

また、「e-Stat」は、個々の一次統計が掲載されているだけではなく、「その他」内、「統計関係リンク集」の「統計年鑑等の統計書」から総合統計である「日本統計年鑑」や「日本の統計」、「日本の長期統計系列」、「世界の統計」などを見ることもできる。特に都道府県別、市区町村別の統計の数値を調べたい場合には、「地域から探す」を見るとよい。主要統計や指標の比較が容易である。

Ⅵ. 例題

ここでは例題を通して統計の使い方を見ていく。統計を調べる際の基本的な手順の流れにそって解説する。設問はできるだけインターネット上だけで調べられるように作成している。回答例はあくまでも基本的な統計の調べ方の一例である。回答例では、「日本統計年鑑」は平成 30 年第 67 回分、その他の統計についても最新のものを用いている（平成 30(2018) 年 1 月 31 日現在)。

1. 小学校数が一番少ない都道府県

ポイント：基本的な総合統計から探す。総合統計で見つけた出典の一次統計にあたる。

2. 東京と名古屋の喫茶店におけるコーヒー 1 杯の価格の違い

ポイント：総合統計から出典の一次統計を見つけて探す。

3. 昭和 30 年代から昭和 60 年代における日本の温泉の利用源泉数と宿泊施設数の変遷

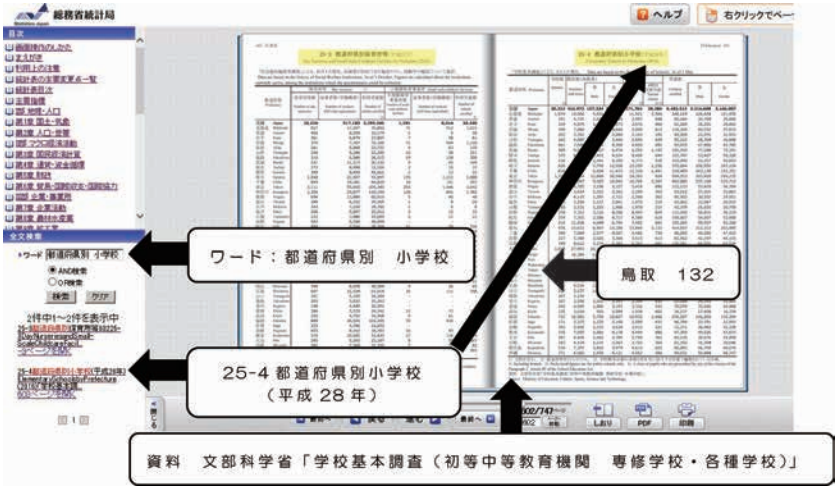
ポイント：長期にわたる数字は長期統計にあたる。

Ⅶ. 解答

1. 小学校数が一番少ない都道府県

ポイント：基本的な総合統計から探す。総合統計で見つけた出典の一次統計にあたる。

総合統計である、総務省統計局の「日本統計年鑑」平成 30 年第 67 回の画面左にある「全文検索」の「ワード」欄に「都道府県別　小学校」と入力して検索する。

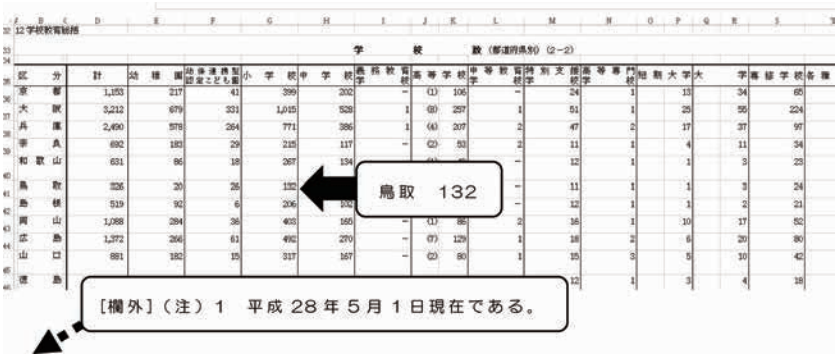


検索結果の 2 件目「25-4 都道府県別小学校（平成 28 年）」をクリックすると、表の中に項目が見つかる。学校数（本校）が一番少ない「132 校」の「鳥取県」が回答である。

この統計の出典を見ると文部科学省の「学校基本調査（初等中等教育機関　専修学校・各種学校）」とある。文部科学省のホームページには概要のみが載っており、統計表は「e-Stat」へのリンクがあるのでアクセスする。

また、分野別統計である「文部科学統計要覧」（平成 29 年版）も見てみよう。まず「4. 小学校」を見るが、都道府県別の小学校数は見当たらない。そこで学校教育全体の概要が分かる「1. 学校教育総括」を念のため見てみると、ファイル内 5 枚目のシート「学校数（都道府県別）」に小学校の数の掲載がある。

この表及び左下の注記（画面例では割愛）により、平成 28 年 5 月 1 日現在、小学校が一番少ない都道府県は鳥取県で、132 校であることがわかる。



「e-Stat」のトップページから「組織から探す」＞「文部科学省」の「学校基本調査」も見ることができる。

これに関連して、都道府県別の様々な統計を調べるには「e-Stat」のトップページから「地域から探す」＞「都道府県・市区町村のすがた（社会・人口統計体系）」を用いるとよい。データ種別は「都道府県データ」と「市区町村データ」がある。最新の一次統計の数値ではないこともあるが、様々な項目の都道府県別や市区町村別の順位を大まかに把握したり、比較するには便利である。調べる場合は、「地域から探す」＞「都道府県・市区町村のすがた（社会・人

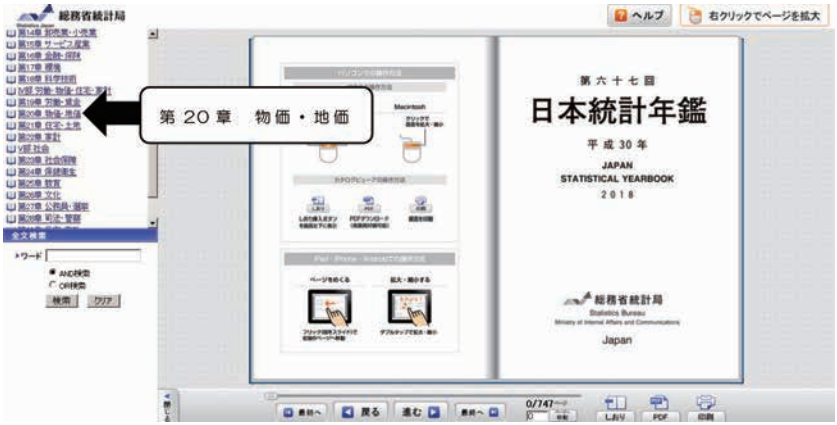
口統計体系)」で「都道府県データ」又は「市区町村データ」を選択＞「地域選択」で都道府県又は市町村の候補を選択＞「表示項目選択」で、例えば分野「教育」の項目候補「小学校数（校)」を選択すると、小学校数の統計表やグラフが表示される。

これにより、2015 年度の調査では、小学校が一番少ない都道府県は鳥取県で、135 校であることがわかる。

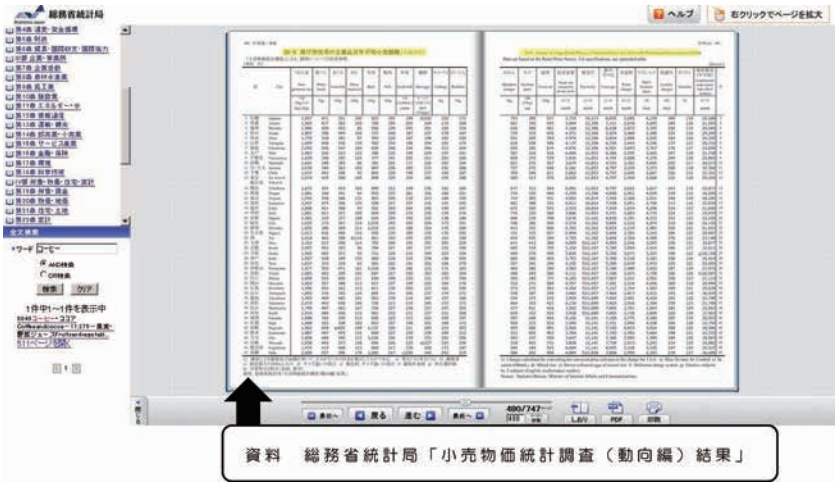
2. 東京と名古屋の喫茶店におけるコーヒー 1 杯の価格の違い

ポイント：総合統計から出典の一次統計を見つけて探す。

総務省統計局の「日本統計年鑑」平成 30 年第 67 回を開く。「全文検索」を「コーヒー」で検索すると、目的の項目はヒットしない。次に同資料の目次でⅣ部「労働・物価・住宅・家計」の「第 20 章　物価・地価」に小売価格の統計に項目がないかを探す。



しかし、目的のデータは見当たらない。ただし、20-9 の表には、県庁所在市のうるち米、電気代、ガソリンなどの主要品目の年平均小売価格が掲載されている。



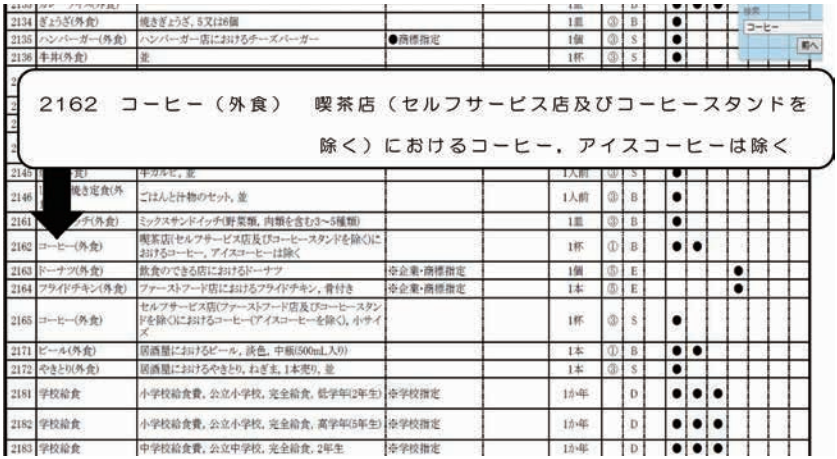
出典にある、「小売物価統計調査（動向編）結果」を見る。「小売物価統計調査結果」には「動向編」と「構造編」がある。「構造編」は消費者物価地域差指数などを掲載しているものなので、個々の品目の価格について調べる際には「動向編」を見る。統計を作成した省庁が判明しているため、ここでは総務省統計局トップページか

ら、見てみよう。統計データ＞50 音順一覧＞小売物価統計調査（動向編）＞小売物価統計調査（動向編）調査結果＞調査の結果＞年間の結果＞年平均 - 年次・報告書の平成 28 年報（2016 年）の順でファイルを開く。

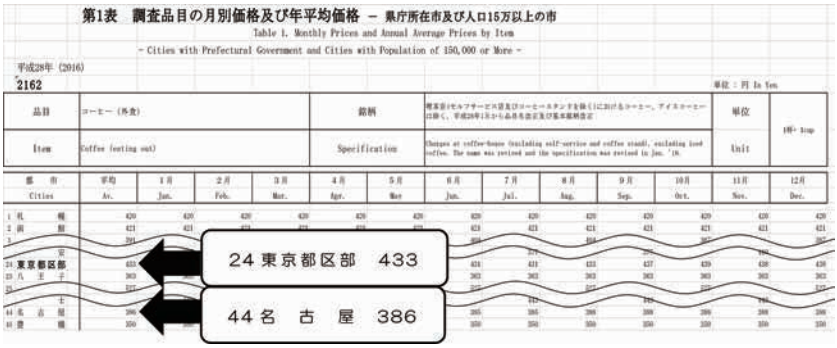
「3. 調査品目及び基本銘柄」を確認する。

コーヒーを検索する。「2162　コーヒー（外食）　喫茶店（セルフサービス店及びコーヒースタンドを除く）におけるコーヒー，アイスコーヒーは除く」が見つかる。検索するときには、文字列検索

（Ctrl キー +F キー）で“コーヒー”を検索すると便利である。

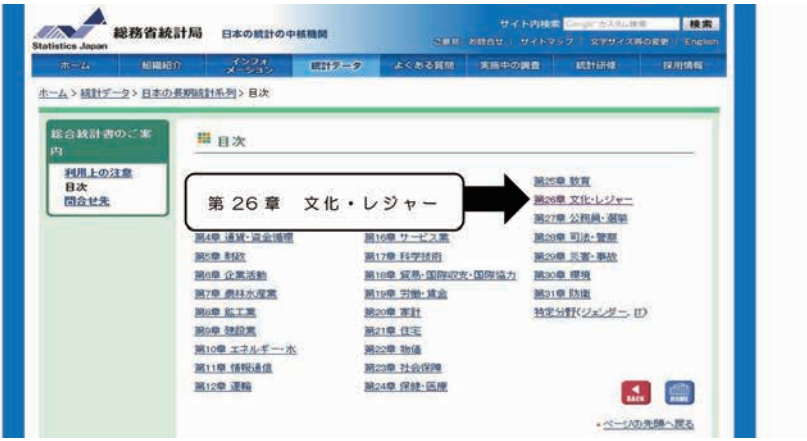


目次に戻って「2. 統計表」をクリックし、2162 を含む「「2135 ハンバーガー（外食）」～「2183 学校給食」」のエクセルシート（又は DB ファイル）を開くと、東京都区部と名古屋の喫茶店におけるコーヒー（アイスコーヒーを除く。）の平均価格はそれぞれ、433 円、386 円である。



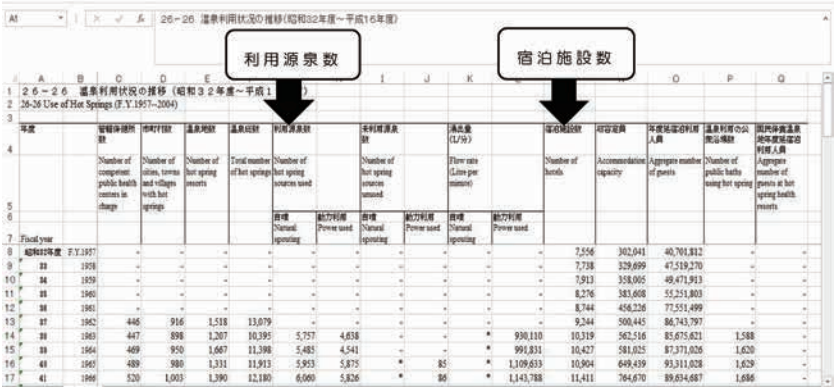
3. 昭和 30 年代から昭和 60 年代における日本の温泉の利用源泉数と宿泊施設数の変遷

30 年以上にわたる長期の数値を調べるという設問である。ここで、「日本の長期統計系列」を思い出そう。「日本の長期統計系列」は索引がないので、目次からあたりをつける。目次を見て、「第 26 章　文化・レジャー」に「温泉」が含まれるのではないかと予想する。



「第 26 章　文化・レジャー」を開く。「余暇」の部分に「26-26 温泉利用状況の推移」がある。出典は環境省自然環境局「温泉利用状況」である。

「26-26 温泉利用状況の推移」のエクセルシートを開く。



利用源泉数については昭和 38 年度から、宿泊施設数については昭和 32 年度からの数値を知ることができる。

Ⅷ. おわりに

本稿では、インターネットを使って総合統計から分野別統計、一次統計と順を追って調べる方法を一例として紹介した。もちろん、統計を調べる方法は一つではない。調べたい統計名が分かっている場合は、「e-Stat」や検索エンジンで検索することが早いこともある。

図書館のレファレンスは統計を使って答えられるものも多い。利用者の質問をよく分析して、より適切な統計を案内できるように工夫を重ねてほしい。さらに詳しく統計の調べ方を知るには、国立国会図書館 HP ＞リサーチ・ナビ＞専門室のページ―経済・社会・教育＞調べ方案内―統計を調べる（https://rnavi.ndl.go.jp/business/entry/post.php）もご参照いただきたい。

最後に、国立国会図書館が提供する「レファレンス協同データベース」（https://crd.ndl.go.jp/reference/）を紹介する。このデータベースには全国の図書館などが様々なレファレンス事例を登録している。調べたいキーワードと「統計」を組み合わせて検索すると統計を用いたレファレンスの先行事例を見ることができる。こちらも活用していただきたい。

※本稿で取り上げたサイトの最終アクセス日は、平成 30(2018) 年 1 月 31 日である。

（さいとう あずさ　利用者サービス部科学技術・経済課）